

平成28年8月31日

(独) 国立美術館の東京国立近代美術館工芸館の 石川県への移転に係る検討状況について

文化庁、(独) 国立美術館、石川県、金沢市においては、「政府関係機関移転基本方針」(平成28年3月22日まち・ひと・しごと創生本部決定)に基づき、東京国立近代美術館工芸館の石川県移転について検討を行ってきました。

このたび、現時点における工芸館移転の基本的な考え方について一定の結論を得たので公表することとします。(同日付配布：石川県政記者クラブ、金沢市政記者室)

＜問合せ先：文化庁＞ 文化庁芸術文化課
課長 加藤 敬 (内線 2822)
支援推進室長 柏田 昭生 (内線 2858)
専門官 吉井 淳 (内線 4796)
電話： 03-5253-4111 (代表)
03-6734-4797 (直通)

＜問合せ先：(独) 国立美術館＞ 本部事務局
事務局次長 山崎 英司 (03-3214-2563)
総務企画課長 渋谷 志穂 (03-3214-2616)

＜問合せ先：石川県＞
企画課長 内田 滋一 (076-225-1311)
文化振興課長 成瀬 英之 (076-225-1371)

＜問合せ先：金沢市＞ 都市政策局企画調整課
課長 久保 雅寛 (076-220-2031)

独立行政法人国立美術館の東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転に係る検討状況について

文化庁、(独)国立美術館、石川県、金沢市においては、「政府関係機関移転基本方針」(平成28年3月22日まち・ひと・しごと創生本部決定)に基づき、東京国立近代美術館工芸館(以下「工芸館」という。)の石川県移転について検討を行ってきました。

この度、工芸館移転の基本的な考え方について、下記のような結論を得たので公表することとします。なお、これらは現時点における予定であり、今後の検討により内容が変更される場合があります。

《工芸館移転の基本的な考え方》

●移転施設・場所

- ・工芸館が移転する施設(以下「移転施設」という。)は、石川県及び金沢市が協力して現工芸館と同規模程度の施設を整備することとする。
- ・移転施設は、石川県金沢市本多の森公園内(「石川県立美術館」と「いしかわ赤レンガミュージアム」の間の敷地)に整備する。(別紙1)
- ・移転施設は、旧陸軍第九師団司令部庁舎、旧陸軍金沢借行社を移築・活用することを念頭に関係機関との調整を進めることとする。(別紙2)
- ・移転施設は、耐火・耐震機能や温湿度管理機能に配慮するなど、美術館としての機能が充分発揮できるよう整備することとする。

●開館時期

- ・移転施設の開館時期は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催期間を目途として調整することとする。

●運営

- ・移転施設の運営は石川県、金沢市等の最大限の協力を得つつ(独)国立美術館が行うこととする。

●所蔵作品

- ・移転施設には、美術工芸作品を中心に現工芸館所蔵作品の半数以上を移転・収蔵することとする。

●展示内容

- ・移転施設における展示内容については、石川県、金沢市の要望等を踏まえつつ、(独)国立美術館において決定することとする。

●連携事業

- ・移転に向けた機運の醸成等を図るため、(独)国立美術館、石川県、金沢市の連携した取組として連携事業を実施することとする。

平成28年度：年度後半に、石川県立美術館において特別展の開催を予定

平成29年度以降：石川県立美術館において、毎年、特別展を開催する他、石川県内美術館における巡回展の開催等を検討

●その他

- ・移転施設の詳細や管理運営に係る体制、運営に当たっての石川県・金沢市の協力体制や経費負担の考え方、移転する趣旨を踏まえた名称等については、文化庁、(独)国立美術館、石川県、金沢市で引き続き検討を継続することとする。

兼六園

旧陸軍第九師司令部庁舎

旧陸軍借行社

県立能楽堂
(昭和47年建設)

文化財保存修復工房
(平屋建、延約530㎡)

(平成28年
建設) 広坂別館
(大正11年建設)

石川県立美術館
(昭和58年建設)

新工芸館
建設予定地

(大正3年建設)

いしかわ赤レンガミュージアム
(大正2年建設)

(明治42年建設)

『旧陸軍第九師団司令部庁舎・旧陸軍金沢偕行社』の概要

- ・ 所在地：石川県金沢市石引 4 丁目
- ・ 建物概要：旧陸軍第九師団司令部庁舎及び旧陸軍金沢偕行社は、いずれも明治期に建てられた、木造洋風建築であるとともに、数少ない軍事施設として貴重な建物であり、国の登録有形文化財に登録されている。現在は、石川県立歴史博物館の収蔵庫として使用している。

<旧陸軍第九師団司令部庁舎>

- ・ 構造形式：木造、二階建
- ・ 建築年代：明治 31 (1898) 年
- ・ 建築面積：275 m²、延床面積：549 m²
- ・ 建造物略年表

年号	概要
明治 31 年	金沢城二ノ丸跡地に建設。
昭和 24 年	金沢大学本部が使用。
昭和 43 年	県が建物を購入し、現在地に移築。その際、両翼が半分に切りつめられる。
昭和 45 年～	石川県健民公社（石川県県民ふれあい公社）が使用。
平成 9 年	国登録有形文化財に登録される。
平成 16 年～	歴史博物館収蔵庫として使用。

<旧陸軍金沢偕行社>

- ・ 構造形式：木造、二階建
- ・ 建築年代：明治 42 (1909) 年
- ・ 建築面積：281 m²、延床面積：544 m²
- ・ 建造物略年表

年号	概要
明治 42 年	現在地付近に建設。
戦後	北陸財務局と金沢国税局が使用。
昭和 42～45 年	県が建物を購入し、現在の敷地内で曳家。その際、講堂部分を解体撤去。
昭和 45 年～	郷土資料館（現：歴史博物館）の収蔵庫として使用。
昭和 55 年～	公園緑地課が使用。
平成 8 年～	石川県道路公社が使用。
平成 9 年	国登録有形文化財に登録される。
平成 18 年～	歴史博物館収蔵庫及び能楽堂楽屋控室として使用。



旧陸軍第九師団司令部庁舎

旧陸軍金沢偕行社

(参考 1)

東京国立近代美術館工芸館について

所在地：東京都千代田区北の丸公園 1-1

施設概要：開館時間 10：00-17：00

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、展示替期間、年末年始

施設概要：土地 敷地面積 4,512 m²

建物 建物面積 929 m² 延床面積 1,858 m²

（機械室を含め約 2,500 m²）

収蔵品数：3,682 点（平成 27 年度末現在）

工芸館は、陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなど、近現代の工芸およびデザイン作品を展示紹介する東京国立近代美術館の分館として、昭和 52（1977）年 11 月 15 日に開館しました。建物は、明治 43（1910）年 3 月に建てられた、陸軍技師・田村鎮（やすし）の設計による、近衛師団司令部庁舎を改修して美術館仕様の建物としたものです。

第 2 次大戦後、荒廃したままに放置されていた旧司令部庁舎は取り壊しの対象となりましたが、明治洋風煉瓦造建築の一典型として、また、官公庁建築の遺構としても重要なことから、その建築的価値を惜しむ声がよせられ、昭和 47（1972）年 9 月に、「重要文化財に指定のうえ、東京国立近代美術館分室として活用する」旨の閣議了解がなされ、同年 10 月、「旧近衛師団司令部庁舎」として重要文化財に指定されました。

外観と玄関、広間の保存修理工事を施し、谷口吉郎による展示室の設計に基づく内部の改装によって、工芸部門の展示施設として再生された建物は、昭和 52（1977）年 11 月、東京国立近代美術館工芸館として開館しました。修復にあたって、屋根は建築当初のスレート葺に復元され、正面ホールから 2 階に伸びる両袖階段に往時の重厚な装いを見ることができます。ゴシック風の赤煉瓦の簡素な外観は、四季折々に周辺の樹木と調和して、独特のたたずまいをみせています。

(工芸館外観)



(参考2)

○政府関係機関移転基本方針

(平成28年3月22日まち・ひと・しごと創生本部決定)(抜粋)

移転対象地域	対象機関	移転の概要	移転の内容
石川	(独) 国立美術館	東京国立近代美術館工芸館の移転	近代工芸分野等における国全体及び当該地域の文化振興や観光振興の視点等に留意し、石川県において現工芸館と同規模程度の施設を整備することを前提に、具体的な施設機能や時期等について、文部科学省、国立美術館及び石川県において、数年のうちに移転する方向で更なる検討を進め、平成28年8月を目途に一定の結論を得る。 併せて移転までの間における国立美術館及び石川県が連携した取組等についても検討を進めることとする。